



No.149

2022.10.28

兵庫県立神戸商業高校

図書館

新着図書紹介



読書週間が始まりました。この機会に一冊でも本を読んでみましょう。

『森鷗外一よみがえる天才』 海堂 尊【著】

医師を家業とする家に生まれ、幼少時から神童と呼ばれた森鷗外。東大医学部に学び、ドイツ留学を経て、陸軍軍医・作家など多くの分野で膨大かつ質の高い仕事をこなした。複雑怪奇な天才の全貌が今、明らかに。

『ウンコの教室—環境と社会の未来を考える』

湯澤 規子【著】

学校のトイレに行けない問題から SDGs まで、ウンコから考える未来。衣食住に「便」を入れると見えるものとは。文理、歴史の壁を越えた探究の旅に出かけよう。

『ようこそ、心理学部へ』

同志社大学心理学部【編】

犯罪から食欲、記憶から感情までを扱い、生理的仕組みを解明し日常的な行動の改良を目指す——。深くて広い心理学の多様な世界を講義形式で紙上体験する入門書。

『ニュース検定公式テキスト&問題集「時事力」

基礎編、発展編〈2022年度版〉』

日本ニュース時事能力検定協会【監修】

ニュース検定は、ニュースや社会を読み解くための「知識」や「思考力」を養い、認定する検定です。入試活用大学・短大450校！小論文面接対策に。

『俺ではない炎上』

浅倉 秋成【著】

ある日突然、「女子大生殺害犯」とされた男。既に実名・写真付きでネットに素性が曝され、大炎上しているらしい。まったくの事実無根だが、誰一人として信じてくれない。必死の逃亡を続けながら、男は事件の真相を探る。

『レジェンドアニメ！』

辻村 深月【著】

誰にだって負けたくない人がいる！ともに働きたい人がいる！待望の『ハケンアニメ！』スピンオフ作品集。夢と希望。情熱とプライド。愛と敬意—何度でも心震える『ハケンアニメ！』のサイドストーリーを完全収録。

『命のクルーズ』

高梨 ゆき子【著】

逃げ場のない密室、不足する薬、安全な場所から批判するだけの人びと。「これは負け戦だ。でも…、俺たちがやるしかないんだ」ダイヤモンド・プリンセス号—豪華客船と3711人を襲った、生と死の極限ノンフィクション。修羅場に乗り込んだボランティア医師たちの闘い。



『応援消費—社会を動かす力』

水越 康介【著】

被災地、好きなブランド、ふるさと納税、推しのアイドル……を消費することで応援しようとする行動が目立っている。このような新しい「お金の使い方」が社会を動かす大きなエネルギーとなっている。新時代のマーケティング思考のメカニズムを解説する。

『京都たのしい社寺さんぽ』

片山 直子【著】

絶対に行きたい京都の神社&お寺を「線でつなく」から迷わない！ 社寺巡りを楽しむ理想の24 コースを紹介。QR コードで読み込める各コースの Google マイマップ付き。

【その他の新着図書】

道	白石 一文	文学
ストレス脳	ハンセン, アンデシュ	医学
虚構の森	田中 淳夫	林業
物語のあるところ一月舟町ダイアログ	吉田 篤弘	文学
やらかした時にどうするか	畑村 洋太郎	心理学
富士山はいつ噴火するのか？ —火山のしくみとその不思議	萬年 一剛	地球 科学
くみたて	田中 達也	絵本
日米地位協定の現場に行く	山本 章子/	軍事
中国のデジタルイノベーション —大学で孵化する起業家たち	小池 政就	経済
ルポ 大阪の教育改革とは何だったのか	永尾 俊彦	教育
誰のための排除アート？不寛容と自己責任論	五十嵐 太郎	建築学
いじめ加害者にどう対応するか —処罰と被害者優先のケア	斎藤 環/ 内田 良	教育
廃炉とは何か—もう一つの核廃絶に向けて	尾松 亮	電気工学
世界の神話 躍動する女神たち	沖田 瑞穂	宗教
16テーマで知る鎌倉武士の生活	西田 友広	日本史
「黑板アート」のアイデア事典	小野 大輔	絵画
蛍と月の真ん中で	河邊 徹	文学
職業としての官僚	嶋田 博子	政治
人種主義の歴史	平野 千果子	政治
大絶滅は、また起きるのか？	高橋 瑞樹	生物学
いま、この惑星で起きていること —気象予報士の眼に映る世界	森 さやか	気象学

外交官になるには	飯島 一孝	行政
化学技術者・研究者になるには	堀川 晃菜	化学
人間科学部—中高生のための学部選びガイド	大岳 美帆	教育
はなちゃんのみそ汁 青春篇 —父と娘の「いのちのうた」	安武 信吾/安武 千恵/安武 はな	家政学
SPY×FAMILY <10>	遠藤達哉	コミック
ソードアート・オンライン 27	川原 礫	ライトノベル

ぶらり選書 2 学年 西村 心経先生

『言葉の不思議』

<想像してください。最愛の人が遠い異国の地にいて、会うこともできず連絡もできない日々が続いたとします。1年に1度、15文字だけメッセージを送ることができます。どんなメッセージを送りますか。> 言葉は不思議なものです。自分の想いをちゃんと伝えようと多くの言葉を用いても伝えたいことが伝わらないのに、無駄を削ぎ落としたたった一言が受け手の想いと掛け合わさり、使った言葉以上に伝わることもあります。

私は読書が嫌いでした。学生の時に一冊も本を読んだことがありませんでした。読もうとはしました。しかし、同じ行を何度も読んでしまったり、いつの間にか瞼が閉じていたり、そんなことを繰り返していたら大人になっていました。大人になってから、何とか読み切ることができた初めての本が、夏目漱石の『こころ』でした。その作品は、私では到底表現することなどできない複雑な心模様を、緻密に、繊細に、丁寧に言葉にしていました。それまで、実体がなくうまく理解することができなかった自分の想いを形にして出会わせてくれたような衝撃を、今でも鮮明に覚えています。読書には、まだ見ぬ『出会い』があります。

60年以上前のある夫婦の話、日本初の南極観測隊として遠い異国の地で働く夫に対して、妻が日本からモールス信号で送った1年に1度きりのメッセージは、『ア・ナ・タ』という3文字だけでした。その言葉は、夫の想いと掛け合わさって無限の意味をもつ世界で一番短いラブレターになりました。言葉は不思議なものです。みなさんもぜひ、言葉の不思議を探究してみてください。その答えはきっと、まだ見ぬ『本』の中にあります。